

ま え が き

第1次5カ年計画期の後半、とくに1964年以降、韓国の経済開発はようやく軌道に乗ってきた観がある。顕著な経済成長がこれを示している。韓国が数少ない先発低開発国の一員として、にわかには注目を浴びてきたゆえんである。しかし韓国経済が膨大な外国援助と外資に支えられ、軍事費の財政圧迫が大きく、ベトナム・国連軍関係の特需が経済活動の大きな刺激要因になっていること、さらに生産構造の「近代化」がまだおこなわれていることなどは、韓国経済開発の過渡期性を示している。

われわれはさきに（本誌第8巻第7号＝昭和42年7月）、こうした韓国経済の発展と停滞の諸契機を明らかにする観点から、韓国経済の現状分析の一環として、主として農業生産構造の検討を行なった。おなじ問題関心から、ここにふたたび、農業を中心とした韓国経済の諸側面について検討することとした。これについて、本号では四つの調査論文、三つの資料的分析および二つの現地調査報告によって検討されている。各報告の概要はおよそつぎのとおりである。

植民地統治下における朝鮮農業の展開——その構造的奇形化を中心として——本稿では、日本資本主義の植民地統治下における地主的土地所有制の確立過程と、そのもとで行なわれた米を中心とする農業生産の展開過程の特質の解明がその主題をなしている。すなわち、「土地調査事業」を契機とする「近代的土地所有制」の確立によって、土地集中・大土地所有がすすみ、植民地的地主小作関係が作り出された。ここでは慣行的な高額現物小作料と耕作権の不安定性および小作農家の農業経営に対する地主の高度の支配・指導によって特徴づけられる、特異の地主小作関係が成立した。日本資本主義にとって、植民地朝鮮の経済的役割は、この主体的条件の変化によって必ずしも一定ではなかったが、昭和恐慌後の一時期を除いて、朝鮮は台湾とともに日本内地の食糧供給基地として重要な地位を占めた。かくて、水利事業、品種改良、施肥その他の農事改良による米の増産政策を中核にした総督府農政は、日本人地主による「農事経営」の推進に積極的役割を果たし、これによって朝鮮の農業生産は著しく増大した。他方この過程において、朝鮮農村における特徴的な高利債の累積、「春窮麦嶺」や農民の火田民化および脱農・流転化は解消しなかったばかりか、ある時期には激化さえした。本稿はこのような朝鮮農業の状況を日本資本主義の植民地統治の一環として、統一的に把握しようとした。しかし、この意図は十分果たされてはいない。また、農業生産の増大を実現した生産条件の整備と、生産構造の植民地的奇形化が、戦後における韓国農業生産力の展開と停滞にどのような関係をもつかについては、本稿ではふれられていない。

韓国の水利事業 水田生産力の発展は、水利の安定を基礎条件としている。韓国においては、その自然条件の特徴から、旱害対策が水利事業の主要な内容となっている。近代以後、水利事業

は、水利組合制度のもとで、国家の財政資金によってすすめられてきた。しかし、これはまだ十分なものではなく、韓国農業は周期的に旱害を蒙り、農業生産の不安定と食糧不足を招き、経済発展を阻害する要因の一つとなっている。このような事実認識から本稿では、韓国における近代以降の水利事業の発達過程と現状を制度的に、あるいは実績面で検討し、かつ最近の朴政権の農業政策の変化と水利問題との関連をさぐろうとした。

韓国の農業労働力に関する一考察 本稿では農業労働力の構造の分析と農業における過剰就業および農村における潜在失業の存在形態の分析を意図した。工業の開発がまだ著しくたちおけている韓国では、農村における膨大な労働力の滞留・堆積を余儀なくされている。こうした農村の過剰労働力・農業過剰就業は、一般に農業生産過程における労働集約化の条件を提供し、それはしばしば農業における商品生産の契機になる。しかし、韓国においては、そうした顕著な事実はみられない。いきおい、農村に堆積された過剰労働力は、潜在的失業人口として存在せざるをえない。これは、韓国農業の問題である以上に、韓国経済の問題である。本稿は、農業労働力構造の分析をつうじて、こうした問題の本質に接近しようと試みたものである。

農産物需給に関する統計的分析 韓国における農産物需給の構造的特徴は、農業生産の停滞による国内供給の限界およびPL 480号を中心とする大量のアメリカ余剰農産物の輸入にある。両者の間には、単に前者を後者が補完するといった関係にとどまらず、後者が前者を規定するという関係が存在するが、いずれにせよ、韓国における膨大な過剰人口の存在は、その農産物需給構造を規定する一要因である。窮迫販売の性格をもっていたとはいえ、朝鮮は戦前には大量の農産物、とくに米を移出していた。その穀倉地帯であった鮮南に位置する韓国が、一転して大量の農産物輸入国になったのは重大な変化である。近來韓国の農産物の需給構造はしだいに改善されつつあるが、このような基本構造はまだ変化するに至っていない。

第1次5カ年計画の成果と第2次5カ年計画の問題点 本稿は、農業を中心に、第1次計画期後半からめだって好転してきた韓国経済の現状を、「計画」との関連において分析し、あわせて第2次計画の問題点について検討したものである。

韓国における経済開発計画と鉄鋼業の育成 本稿では現地調査による韓国経済および鉄鋼業の現状に関する観察を基礎に、鉄鋼業の現状分析と、野心的な鉄鋼業建設計画とその問題点について検討されている。

韓国農業の問題点と農漁村開発公社の設立 本稿では、農業開発に推進的役割を期待されている「開発公社」の設立とそれをめぐる諸問題についての検討がなされている。

(笹本武治)